



SPARC Enterprise プレインストール情報

2015年10月
富士通株式会社

商標について

OracleとJavaは、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

すべての SPARC商標は、米国SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

SPARC Enterprise は、Oracle Solaris などのソフトウェアがプレインストールされています。ここでは、プレインストールされているソフトウェアプロダクト、ディスクパーティション構成の情報を説明しています。また、プレインストールされたソフトウェアを使用する上で、ご注意頂きたいことを説明しています。

1. プレインストールソフトウェアプロダクト

■ Oracle Solaris

すべての SPARC Enterprise モデルに、Solaris 10 11/06 以降がプレインストールされています。SPARC T4-1/T4-2/T4-4 には、Oracle Solaris 11 11/11 以降がプレインストールされています。

インストールされています OS のリリース版数は以下により確認できます。

```
$ cat /etc/release
```

■ Sun Java Enterprise System

SPARC Enterprise モデルにより、Sun Java Enterprise System がシステムディスクに格納されている場合がありますが、使用できません。

Sun Java System 製品をご使用の際は、あらたにメディアの購入・ライセンスの購入・サポート契約が必要となります。

■ その他インストールソフトウェア

SPARC Enterprise T1000/T2000/T5120/T5220/T5140/T5240/T5440 には、以下のソフトウェアがインストールされています。本体装置により、インストールされていないソフトウェアもあります。

なお、以下のソフトウェアについては、富士通ではサポートしません。

- Sun Studio (*1)

*1:本ソフトウェアは、サポート商品を購入することにより、サポート可能です。

- GCC for SPARC Systems
- SPOT(Simple Performance Optimization Tool)
- BIT(Binary Improvement Tool)
- ATS(Automatic Tuning & Trouble-Shooting System)
- CMT ツール

SPARC Enterprise T5120/T5220/T5140/T5240/T5440 には、以下のソフトウェアがインストールされています。

- Logical Domains Manager Software

SPARC T3-1/T3-2/T3-4/T4-1/T4-2/T4-4 には、以下のソフトウェアがインストールされています。

- Oracle VM Server for SPARC Software

- Electronic Prognostics(*2)

*2 : 本ソフトウェアについては、富士通ではサポートしません。

2. ディスクパーティション構成

Oracle Solaris10 がプレインストールされている場合、システムディスクはデフォルトで以下のようなディスクパーティション構成となっています（ファイルシステムは UFS）。各スライスのサイズは Solaris のバージョンにより異なることがあります。

スライス	ファイルシステム	サイズ
0	/	12GB ~ 15GB
1	Swap	4GB
2	Backup	ディスク全体
3	-	12GB ~ 15GB
4 ~ 7	-	

実際のサイズは、以下の手順により確認することができます。

- 1) format(1M)コマンドを実行します。

```
# format
```

```
Searching for disks...done
```

- 2) ディスクを指定します。

```
Specify disk (enter its number): 0
```

- 3) partition メニューを選択します。

```
format>: p
```

- 4) 表示を選択します。

```
partition> p
```

【表示例】

Part	Tag	Flag	Cylinders	Size	Blocks
0	root	wm	825 - 3916	15.00GB	(3092/0/0) 31464192
1	swap	wu	0 - 824	4.00GB	(825/0/0) 8395200
2	backup	wm	0 - 14086	68.35GB	(14087/0/0) 143349312
3	unassigned	wm	3917 - 7008	15.00GB	(3092/0/0) 31464192
4	unassigned	wm	0	0	(0/0/0) 0
5	unassigned	wm	0	0	(0/0/0) 0
6	unassigned	wm	0	0	(0/0/0) 0
7	unassigned	wm	0	0	(0/0/0) 0

- 5) パーティションメニューを終了します。

```
partition>: q
```

- 6) format メニューを終了します。

```
format>: q
```

Oracle Solaris 11 がプレインストールされている場合、プレインストールされているシステムディスクは、ZFS ルートファイルシステムになります。システムディスク上のすべてのディスク領域は、プレインストールソフトウェア用に割り当て済ですが、スワップデバイスとダンプデバイスのサイズは `zfs(1M)` コマンド変更することができます。

3. プレインストールソフトウェアを使用する上での注意事項

3.1. プレインストールによるメッセージについて

プレインストールされたシステムは、ログイン時のシステムメッセージにより、すべてのユーザに、プレインストールされているソフトウェアに関する情報が表示されることがあります。このメッセージを表示したくない場合は、`/etc/motd` ファイル(テキストファイル)を編集してください。

3.2. プレインストール済パッチについての注意事項

プレインストールされたシステムに以下のパッチが適用されている場合は、各パッチにおいて注意事項がありますので、システム運用前に必要な対処をしてください。

● Oracle Solaris 10

Patch	注意事項	処置
119963-08 SunOS 5.10: Shared library patch for C++	Systemwalker Centric Manager VL13 もしくは Systemwalker Event Agent VL13 をインストール (Systemwalker Centric Manager 13.0 の場合、「監査 ログ管理」を選択してインストール) した場合、これらが提供するコマンド の一部が異常終了します。	修正パッチを適用してください。 修正パッチについては、当社技術 員にお問い合わせください。
120473-12 SunOS 5.10: libc nss ldap PAM zfs patch	本パッチが適用された環境において、 システムブート時にハングアップする ことがあります。 (Solaris 10 11/06, 8/07 のみ)	修正パッチ 126540-02 以降を適用 してください。
127111-04 以降 SunOS 5.10: kernel patch	SPARC Enterprise M4000, M5000, M8000, M9000 において、XSCF の DR コ マンド <code>deleteboard(8)</code> , <code>moveboard(8)</code> が、ハングアップすることがあります。 (Solaris 10 11/06, 8/07, 5/08 のみ)	修正パッチ 137111-01 以降を適用 して、ドメインを再起動してくだ さい。
127127-11 SunOS 5.10: kernel patch	SPARC Enterprise M4000, M5000, M8000, M9000 において、システム起動 時にパニックが発生することがありま す。 (Solaris 10 11/06, 8/07, 5/08 のみ)	<code>/etc/system</code> に以下の記述を追加 して、ドメインを再起動してくだ さい。 <code>set heaplp_use_stlb = 0</code> または、 修正パッチ 137137-09 を適用し

		て、ドメインを再起動してください。
	本パッチが適用された環境において、以下の製品が正常に動作することができません。 <ul style="list-style-type: none"> ・ Interstage Print Manager Standard Edition ・ PrintWalker/BPC ・ PrintWalker/BPC-EX 	修正パッチ 138627-04 以降、および各プリンタ製品のパッチを適用してください。 修正パッチについては、当社技術員にお問い合わせください。
125100-04 以降 SunOS 5.10: kernel patch	本パッチが適用された環境において、システム起動時に以下のメッセージが表示されることがあります。 picld[143]: [ID 537930 daemon.error] SUNW_piclmemcfg init mc failed!	/dev/mc ディレクトリとその配下のファイルを削除してください。
137111-01 以降 SunOS 5.10: kernel patch	本パッチが適用された環境において、以下の製品が正常に動作することができません。 <ul style="list-style-type: none"> ・ Interstage Application Server ・ Interstage List Creator ・ Interstage Security Director ・ Systemwalker Centric Manager ・ Linkexpress (Solaris 10 11/06, 8/07, 5/08 のみ)	修正パッチ 137137-09 を適用して、ドメインを再起動してください。
119280-23 CDE 1.6: Runtime library patch for Solaris 10	本パッチではセキュリティ障害が修正されていますが、修正不十分でした。	修正パッチ 119280-25 以降を適用してください。

4. その他

4.1. Oracle Solaris ライセンスについて

Oracle Solaris ライセンス（使用権）は、本体処理装置、及び OS サポートを含む SupportDesk サービスに含まれており、次のとおりです。

① 本体処理装置 (OS サポートなし) :

プレインストールされている Oracle Solaris のバイナリーのみ商用利用する権利が含まれています。

② 本体処理装置 (OS サポート [平日] 1 年間付) :

プレインストールされている Oracle Solaris のバイナリーを商用利用する権利と、富士通出荷後 1 年間はプレインストールされている Oracle Solaris のバイナリー

以外に変更して商用利用する権利が含まれています。

③ OS サポートを含む SupportDesk サービス :

サポート期間中にプレインストールされている Oracle Solaris のバイナリー以外に変更して商用利用する権利が含まれています。

Oracle Solaris のメディアパックには Oracle Solaris ライセンス (使用権) は含まれていません。

4.2. Oracle Solaris メディアパックについて

ハードウェア異常などでハードディスクを交換した場合、交換したディスクには、ソフトウェアはプレインストールされていません。交換前のハードディスクにプレインストールされた Oracle Solaris をそのまま使用される場合も、システムの再構築・再インストールに備えて、Oracle Solaris メディアパックを手配してください。

Oracle Solaris メディアパックの使用条件は、本体処理装置、OS サポートの手配により、下表のように異なります。

本体処理装置にプレインストールされている Oracle Solaris バイナリーの版数から手配するメディアパックの Oracle Solaris 版数への変更可否にはご注意ください。

また、当社が販売した Oracle Solaris メディアパックは、当社が販売した本体処理装置でのみ使用することができます。

手配/契約内容			本体処理装置にプレインストールされているバイナリーの版数			
本体処理装置	出荷後の経過期間	OS サポートを含む SupportDesk サービス	メディアパック	Oracle Solaris 11. X	Oracle Solaris 11. Y	Oracle Solaris 10 Z/Z
本体処理装置 (OS サポート [平日]1 年間付)	1 年以内	契約/未契約	Oracle Solaris 11. X	○再インストール可	○変更可	○変更可
	2 年目以降	契約			○変更可	○変更可
未契約		×変更不可			×変更不可	
本体処理装置 (OS サポートなし)	—	契約			○変更可	○変更可
		未契約	×変更不可	×変更不可		